

環境マネジメント

■ 環境宣言

ホテルグランヴィア京都は、環境法令を守り、節水や省エネ、廃棄物の削減等を通じて地球環境にやさしいホテルづくりを目指しています。当ホテルでは、「環境宣言」を策定し、全社員への浸透を図るため、名刺大の「環境宣言カード」を作成し配布しています。

株式会社ジェイアール西日本ホテル開発〔ホテルグランヴィア京都〕環境宣言

基本理念

株式会社ジェイアール西日本ホテル開発〔ホテルグランヴィア京都〕は、地球環境の保護が 21 世紀における人類の最重要課題のひとつであることを認識し、環境にやさしいホテル経営を通じて社会に信頼される企業づくりを目指します。

環境方針

株式会社ジェイアール西日本ホテル開発〔ホテルグランヴィア京都〕は、当社の事業活動に伴う環境負荷を低減するため、以下の方針に基づき環境マネジメント活動を継続展開します。

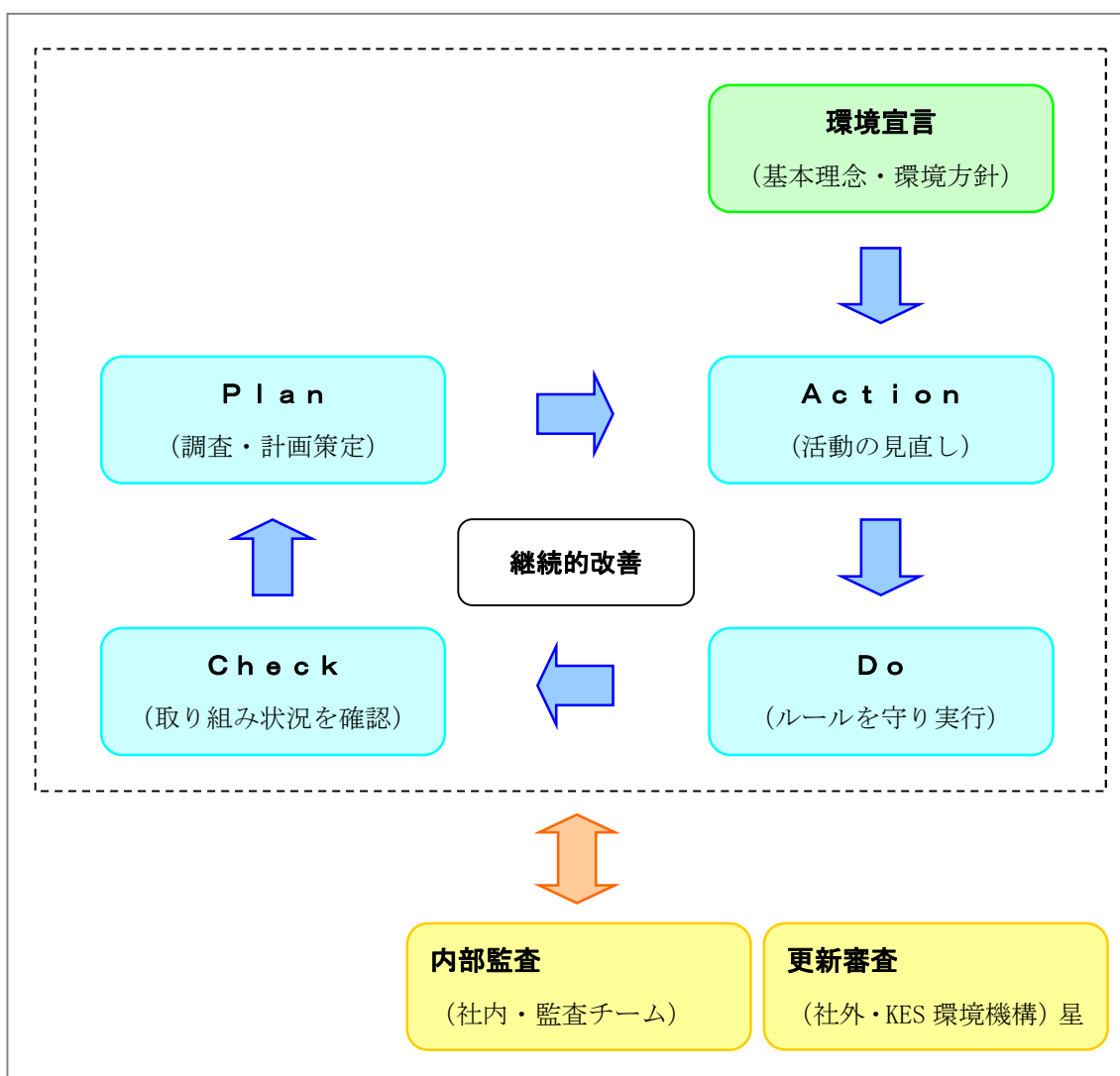
1. 事業活動が環境に与える影響を常に認識し、環境汚染の予防と継続的な環境改善に取り組みます。
2. 環境関連法・その他規制事項を適切に把握し、要求事項を遵守します。
3. 当社の事業活動に関する環境影響のうち、以下の項目を主要な環境改善テーマに位置付け、環境目標を設定し定期的な見直しを行います。
 - ① 環境教育・啓発活動
 - ② 化学物質の削減
 - ③ 節水・省エネルギー化
 - ④ グリーン購入
 - ⑤ 廃棄物の削減
4. 一人ひとりが環境に対する意識を高め、環境改善活動を実践できるよう、環境宣言を全従業員に周知します。
5. 環境宣言は社外へ広く開示するとともに、パートナー会社に対して当社の環境改善活動に対する理解と協力を求めます。

環境マネジメント

■ KES（環境マネジメントシステム・スタンダード）認証取得

ホテルグランヴィア京都では、将来にわたり継続的に地球環境保護への取り組みを実践していくために、「環境マネジメントシステム」を構築しています。平成17年3月に宿泊施設で最初の「KES（環境マネジメントシステム・スタンダード）ステップ2」を取得しました。

環境マネジメントの仕組み（PDCA サイクル）



■ 「KES（環境マネジメントシステム・スタンダード）」について

KESは環境マネジメントシステムの規格で、企業経営等において環境への負荷を管理、低減するための仕組みです。環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」を簡易化して取り組みやすい内容で誕生したのがKESです。詳しくはKESの認証機関である「KES環境機構」のホームページをご覧ください。（KES環境機構 URL：<http://www.KESkyoto.org/>）

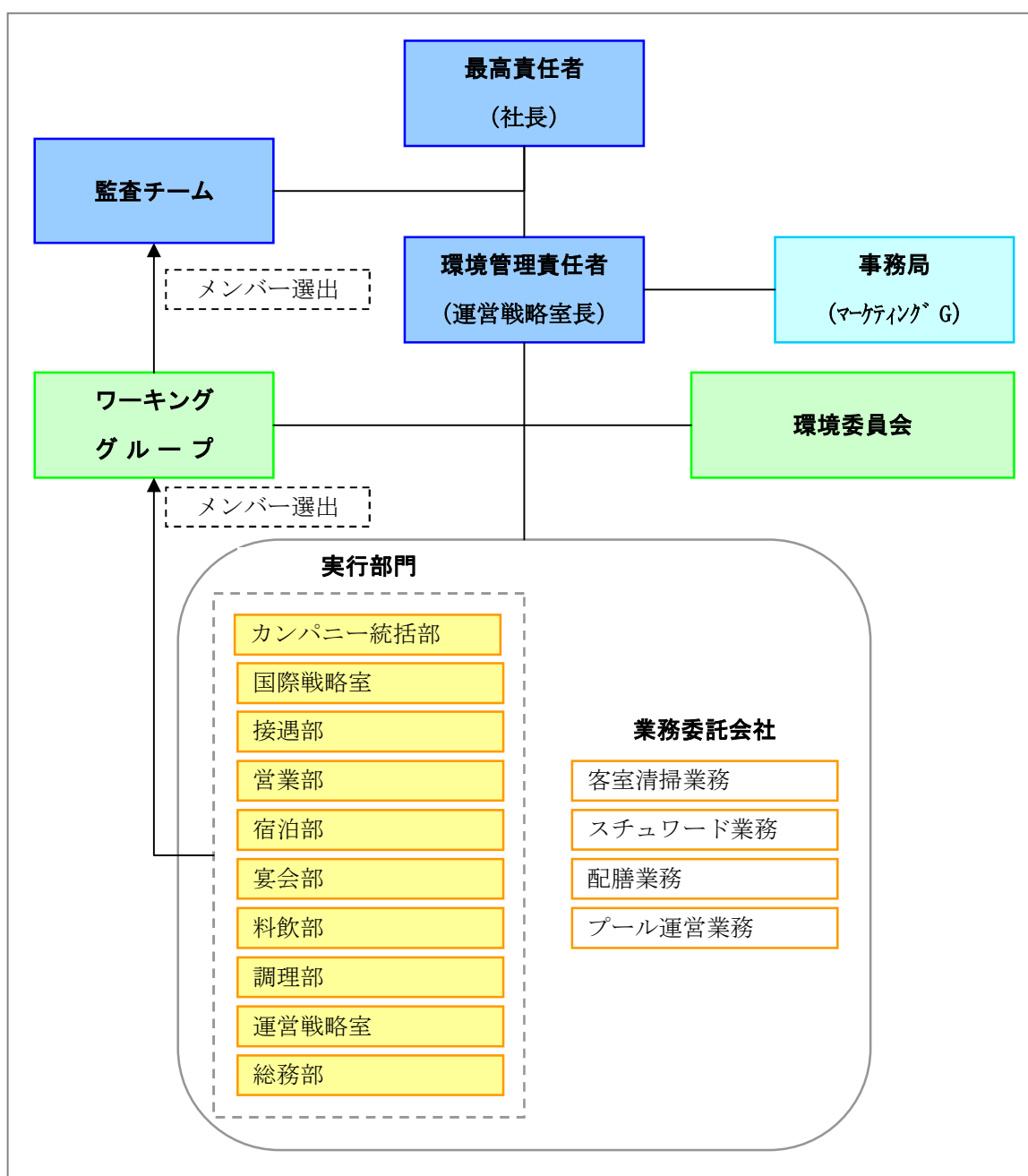
環境マネジメント

■ 環境マネジメント推進体制

ホテルグランヴィア京都では、環境マネジメントの推進組織として、「環境委員会」「ワーキンググループ」を位置づけています。

各部門の実務担当者で構成される「ワーキンググループ」は、環境目標の達成状況を確認、分析し、各種のアクションプランの推進などについて検討を行っています。

環境マネジメント推進体制



環境マネジメント

■ 平成 22 年度の環境目標と達成状況

KES においては、数値目標である「環境目標」と、その目標を達成するためのアクションプランを毎年、策定しており、平成 22 年度は、数値目標を設定した 5 項目のうち、2 項目については目標を達成しましたが、3 項目については目標を達成できませんでした。

平成22年度の環境目標の達成状況

	環境目標 (対 21 年度比)	22 年度実績 (対 21 年度比)
洗剤使用量 (※1)	1%削減	12.8%増加
エネルギー使用に伴う CO2 発生量 (※1)	1%削減	2.7%増加
グリーン購入比率 (金額ベース) (※2)	60%以上	64.0% (前年より△5.5P)
雑厨芥 (可燃ごみ) 処理量 (※1)	1%削減	3.1%減少
OA 用紙使用量	1%削減	13.9%増加

※1 印の項目について

売上や利用者数が伸びると、エネルギー使用量や廃棄物の発生量も増加するため、売上百万円あたりの使用量 (処理量) を指標にしています。

※2 印の項目について

22 年度の事務用消耗品購入比率 60%以上を目標としております。

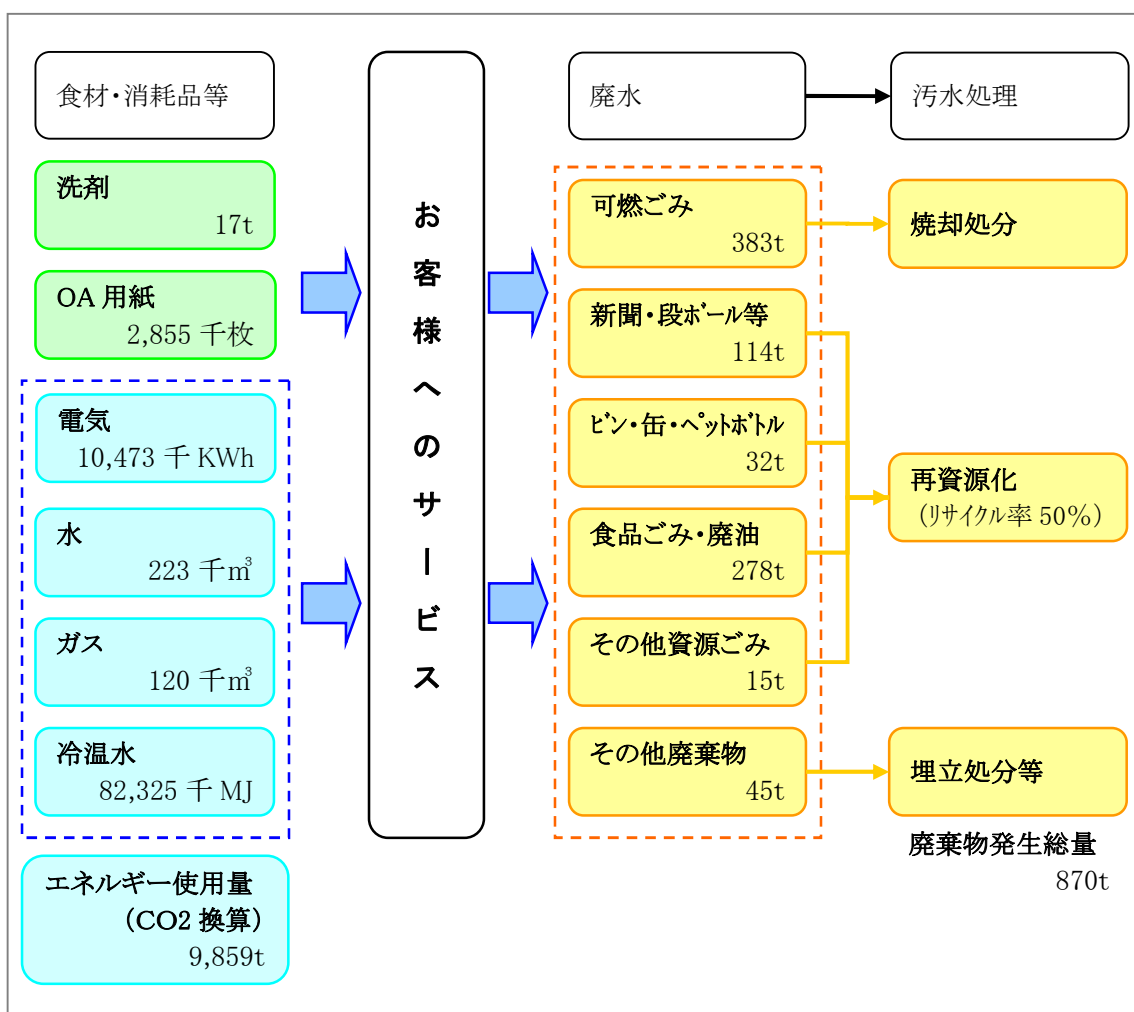
環境マネジメント

■ 環境データ

ホテルグランヴィア京都は、客室 535 室、大小 13 の宴会場、レストラン 13 店舗を有し、年間約 150 万人のお客様にご利用いただいています。

その過程では多量のエネルギーや食材、資材を投入し、また、大量の廃棄物が発生しており、投入する資源やエネルギーは効率的に、発生する廃棄物は有効活用し可能な限り少なくする事が、地球環境に優しいホテル運営であると考えます。

ホテルで 1 年間に使用するエネルギー・発生する廃棄物 (22 年度実績)



主要な環境指標の推移

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	16-21年度比	21-22年度比
洗剤使用量 (kg)	20,798	19,575	18,940	15,767	15,195	15,304	16,932	81.4%	110.6%
エネルギー使用量 CO2換算 (t)	11,062	10,288	9,923	9,836	9,391	9,625	9,859	89.1%	102.4%
電力使用量 (千Wh)	11,677	9,910	10,093	10,183	9,627	10,501	10,473	89.7%	99.7%
ガス使用量 (千?)	152	159	153	128	121	120	120	78.9%	100.0%
水道使用量 (千?)	251	246	237	229	212	216	223	88.8%	103.2%
温水使用量 (千MJ)	37,662	39,498	34,740	33,521	32,561	33,020	33,040	87.7%	100.1%
冷水使用量 (千MJ)	54,621	50,998	49,567	49,791	47,595	45,714	49,284	90.2%	107.8%
廃棄物総発生量 (t)	1,176	1,018	1,001	941	876	891	870	74.0%	97.6%
可燃ごみ処分量 (t)	922	738	580	436	372	401	383	41.5%	95.5%
廃棄物リサイクル率	18%	23%	38%	49%	53%	50%	50%	(+32P)	(±0P)
OA用紙使用量 (千枚)	3,012	2,669	2,531	2,395	2,370	2,507	2,855	94.8%	113.9%

地球環境保護へのアクション

■ 地球温暖化防止に向けて

ホテルグランヴィア京都では、地球的規模で深刻化する地球温暖化について、省エネとごみ焼却量の削減による温暖化ガスの発生抑制と、CO₂の吸収源である森林資源保護の観点からOA用紙の使用量削減に努めています。

① エネルギー使用量の削減

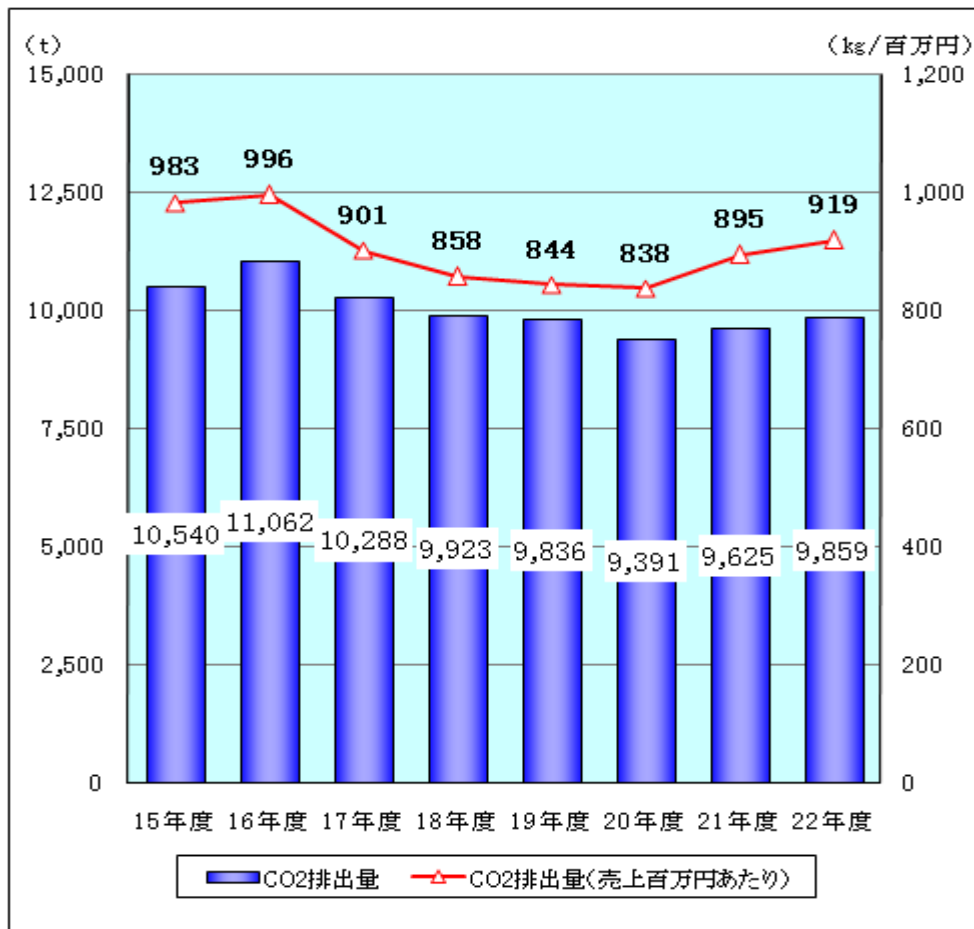
ホテル館内で使用するエネルギーの効率化（省エネ）と無駄の削減に努め、より少ないエネルギーで、お客様に満足していただける快適な空間と料理、サービスを提供できるように努力しています。

また、当ホテルが立地する「京都駅ビル」では、1997年（平成9年）の開業時より、コジェネレーションによる、効率的なエネルギー供給を行っています。

（主な取り組み事例）

- ・ ガラス面には遮熱フィルムを貼り、冷暖房を効率化
- ・ 厨房には節水装置、従業員施設には、節水型シャワーやセンサー式のトイレを導入
- ・ 照明のLED化や照明、空調設備の運用改善

エネルギー使用に伴うCO₂排出量の推移



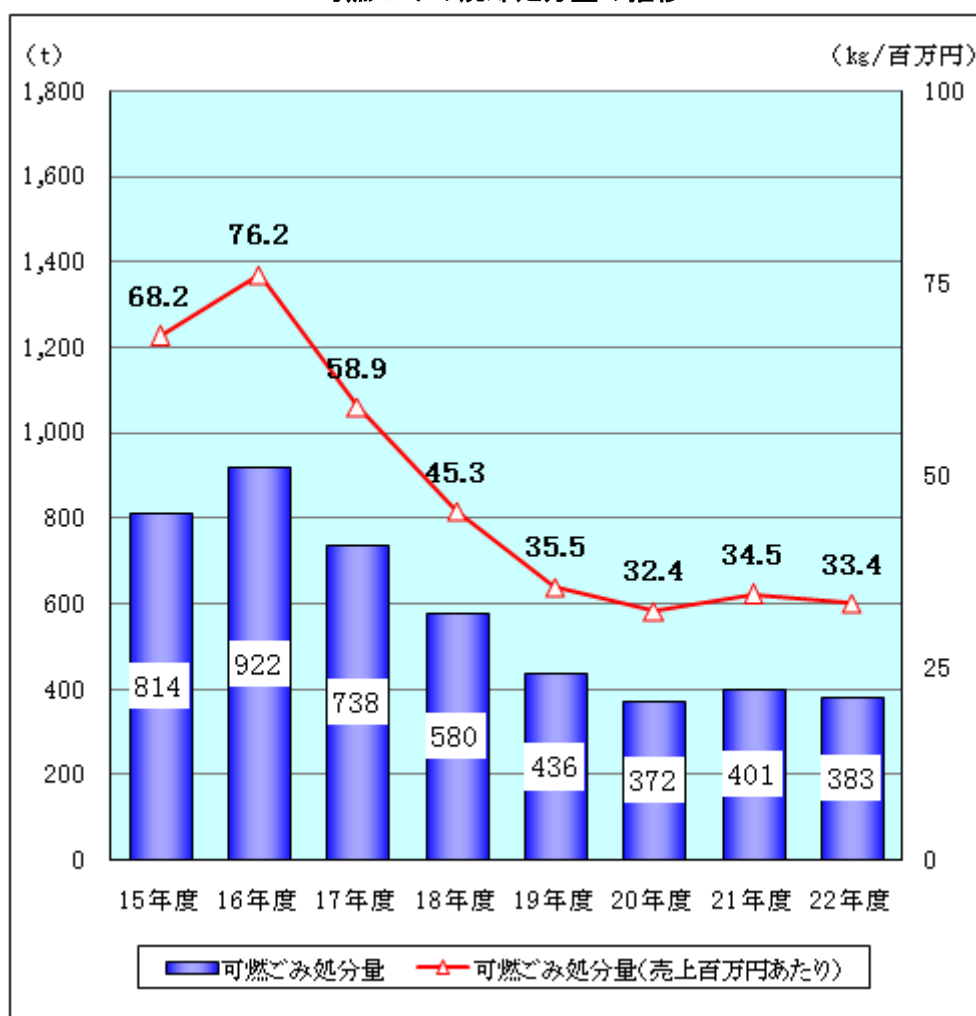
② ごみ焼却量の削減

「ごみを発生させない（抑制）」「リユース（再使用）」「リサイクル（再生利用）」により、廃棄物の大部分を占め、ごみ処理場で焼却する可燃ごみの削減に努め、リサイクル率の向上に取り組んでいます。

（主な取り組み事例）

- ・ 廃棄物は17種類に分別し、そのうち14種類をリサイクル
- ・ 食品ごみを飼料として食リサイクル
- ・ 廃食油をバイオ燃料の原料としてリサイクル
- ・ 宴会場やレストランで使用された割箸は、洗浄後に回収し、製紙会社で紙の原料としてリサイクル

可燃ごみの焼却処分量の推移



③ OA 用紙使用量の削減

社内で使用する OA 用紙の使用量削減に努め、森林資源の保護と、使用後の紙ごみの発生抑制に取り組んでいます。

(主な取り組み事例)

- ・ 社内 LAN やグループウェアによるペーパーレスでの情報共有
- ・ 両面印刷や裏紙の有効利用
- ・ 管理帳票や保管書類のデータ化
- ・ 発注業務、申請業務のオンライン化

地球環境保護へのアクション

■ 食のリサイクル

ホテルグランヴィア京都では、調理の過程や食べ残し、売れ残りなどで大量に発生する「食品ごみ」のリサイクルに取り組んでいます。

食品ごみは、外部の委託業者により、飼料の原料に加工され、最終的には畜産農家で飼料として活用されています。

地球環境保護へのアクション

■ その他の取り組み

ホテルグランヴィア京都では、毎月2回、京都駅前地域の清掃活動に参加しています。

客室で使用する冷蔵庫は、オゾン層の破壊や地球温暖化の原因である「フロンガス」を使用しない冷蔵庫を採用しています。その他、OA用紙や名刺には再生紙を使用するなど、グリーン購入を積極的に進めています。

食器洗浄に使用する洗剤は、使用後も河川などへの影響を考慮し、環境に優しい洗剤への転換を進めるとともに、自動希釈装置を設置し使用量の適正化に取り組んでいます。